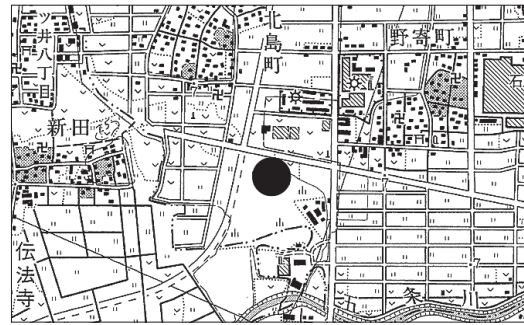


ごんげんやま
権現山遺跡

所在地 岩倉市北島町および野寄町地内
調査理由 五条川右岸流域下水道建設
調査期間 平成11年5月～8月
調査面積 500 m²
担当者 春日井 毅・飴谷 一・加藤博紀・伊藤太佳彦・
木川正夫・蔭山誠一



調査地点 (1/2.5万「一宮」)

調査の経過 権現山遺跡は、岩倉市の南西部にあたる北島町および野寄町地内に所在し、五条川右岸に形成された自然堤防状に立地している。発掘調査は五条川右岸流域下水道建設に伴うもので、愛知県土木部より愛知県教育委員会を通じた委託事業として平成8年度より実施している。今年度は本調査と範囲確認調査を合わせて500 m²の調査を実施した。

調査の概要 今回の調査区(A～D区)は、96年度調査区と97年度調査区を結ぶ形でトレンチ状に設定されている。現在は標高6 m程の平坦な地形であるが、各調査区の状況から判断すると、かなり大規模に削平されているものと考えられる。おそらく96年度調査区と97年度調査区の間が谷状にくぼみ、その両側の微高地状の部分に遺構が展開していたものと思われる。

これまでの調査では縄文時代後期(I期)・弥生時代後期～古墳時代初頭(II期)・古墳時代後期(III期)・奈良時代後期(IV期)・江戸時代後期以降(V期)の遺構・遺物が確認されている。今回の調査ではA区でI期の、C区ではII期の遺構を検出し、B区とD区では新たに中世の遺構・遺物を確認することができた。

A区では北東のコーナー部分で竪穴状遺構が検出され、炭化材や焼土といっしょに縄文土器や石器がまとまって出土している。

C区で検出された溝は、97年度調査および96年の範囲確認調査(T8)の結果から、97年度調査区のSZ02と、その東側に位置すると考えられる墳丘墓(SZ03)の一部である可能性が高い。いずれの溝も遺物の量は少ないが、SZ02の一部と考えられる溝からは廻間I式の甕が出土している。

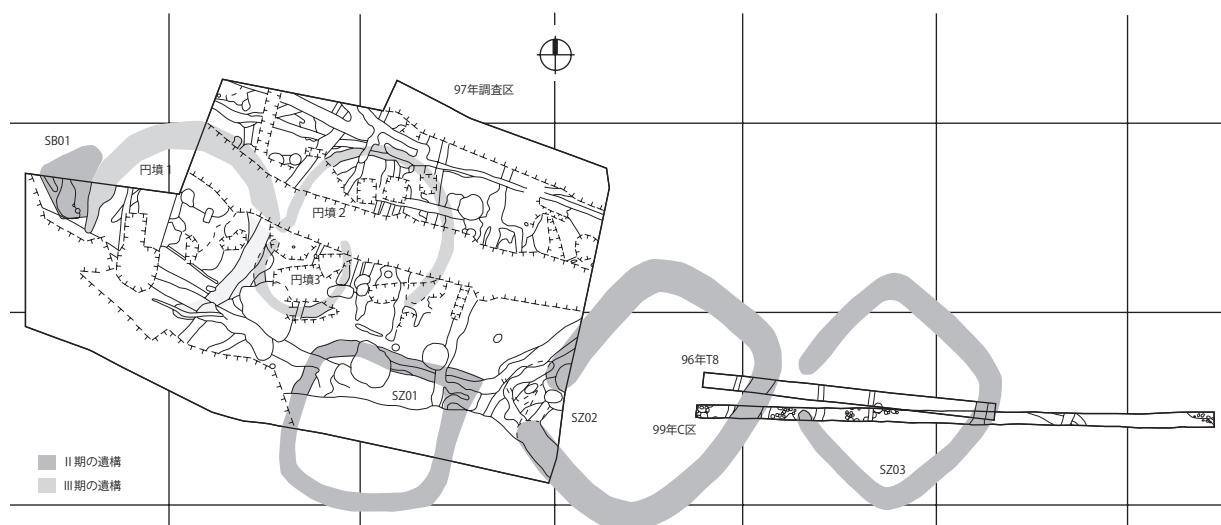
B区とD区では、幅3.5 m、深さ1.3 mの東西方向の溝を検出している。この溝は2度掘り直されており、何らかの区画を意識したものと考えられる。溝からは灰釉系陶器や古瀬戸の卸皿などが出土しているほか、須恵器がまとまって出土している。今回の調査ではIV期の遺構は確認できなかったが、この時期の遺構が周辺に展開しているものと考えられる。

また範囲確認調査の結果から、遺跡の南側の部分は大規模な削平によって大半がすでに破壊されてしまったものと考えられる。

(伊藤太佳彦)



第1図 調査区位置図 (1 : 5,000)



第2図 II～V期遺構図 (1 : 800)